



### 第 2 号

発行所  
鎌倉市材木座 6-17-19  
光明寺中神奈川教務所内  
浄土宗神奈川教区青年会

発行人  
柴田 哲彦  
編集者  
野中 省道  
白石 謙祐

## 神浄青一泊研修会報告

一月十七日十八日の両日にわたり神浄青研修会が、熱海誓院、及び新宗教本部の見学を添えて開催された。今回のテーマは、「新興宗教について」。一日目は当教区篤見会員より、「新宗教の現状と展開」の講話があり、そのあとディスカッションを行ない、二日目は創価学会大石寺、世界救世教本部の見学をして、みのりある研修会であった。

第二次大戦後、「雨後のたけのこ」と称された新宗教は六百を数えたと いわれる。そのうちいくつかは消え たにしても、今日に至るまで新宗教 の占める位置、役割がいかに大きか ったかは周知のことである。多くの 宗教が、それぞれ独自の世界観を呈 示し、その普遍性を説くが、必らず しも、すべての欲求を満足させてい ることはない。新宗教は 既成宗教が見失なった庶 民の宗教的諸欲求を巧み に捉え、これを説明して 行動にかりたててきてい

### 新宗教の現状と展開

る。庶民の欲求に敏感な反応を示す という事は同時に庶民がおかれてい る社会的・歴史的状况に反応する事 を意味している。

例えば井門富二氏は戦後宗教を 昭和三十五年以前を境として、二期 にわたける事を提唱されている。つま り、三十五年以前は世界救世教の岡 田茂吉の「貧・病・争」の三大苦の

現世が中心テーマで、三十五年以後 は「生きがい」の追求に重点がおか れた事で区別を試みている。その社 会的背景として農村型から都市型社 会への移行に伴って、社会を規制す る諸価値が拡散化した事に求めてい る。さて、この様な状況は新宗教の 特質に最も現われている。 普通宗教を構成する要素は、教祖

### 創価学会、世界救世教を中心として

大正大学宗教学研究室

鷲

見

定

信

・教理・教団(信者)といわれる。 この各レベルから新宗教の特質を 大雑把に整理すると、まず教祖では カリスマ的資質が挙げられる。厳密 な概念は措くとして、このカリスマ 的資質を非日常的な「ある種の靈力 がそなわった人」と見た場合、そこ には中山ミキを始め多くの「人々」 が数えられる。このカリスマ性を維

持するために、血縁者が教団を継承 させていく事が多い。つぎに教理の レベルではまず重層信仰がある。

「神がかり」的指導から徐々に教理 の整備が進められる過程に神道、仏 教、基督教などの延用及至折衷によ って体系化を試みる。霊友会の分派 の場合、小谷キミの靈的能力から法 華經中心の教理への移行がトラブル の原因の一つとなっている事は周知 のことである。教理のシンクレティ ズムに加えて、現世利益がある。こ れは「たて直し信仰」、「たたり信 仰」を包含して教理の中心をなして いる。これは極めて具体的な性格を もち、戸田城聖がいった「幸福製造 機」といういい方や、救世教の岡田 茂吉の三大苦が典型的である。 信者のレベルでは「一つの共同社 会に所属する機会」が与えら れる。

それは「法座」スタイルで その内容は告白、悔い改め、 相互扶助で、ここには現実社 会で衰われた「上記の内容の相対的 欠乏感を充たす「満足感」があたえ られている。ここに生じた一体感 は大衆行動に対する積極的なエネルギ ーとなっている。 簡単であるが以上の様な新宗教の 特徴は既成仏教にとってどの様な意 味をもっているかは今後の課題の一 つとなると思われる。

# 新宗教見学記

## ● 威圧する大石寺 ● 華やかな救世教本部

一月十八日(出熱海の誓欣院での朝食時、誓欣院住職長田順海師から、インド、スリランカ、ベトナム、パキスタンの孤児の受け入れの苦勞話また、インド仏跡旅行の心得について話があった。その話を伺い我々の使命感の乏しきを知り、我々としてもその一助となればと思ひ、希望者で僅かながらも「何かに使つて下さい。」と喜捨を置いて、今日の見学地大石寺へバスで出発した。

昨夜、前記の誓欣院で七時より十時まで「新宗教について」の大正大学鷲見先生の講義と、デイスカッションされたことを念頭におき、総勢三十二名(東京、埼玉浄青より三名参加)は、午前十時三十分大石寺山門前に到着した。長い交渉の後見学許可がおり、それぞれ胸に見学者用ワッペン(ワッペンをつけていない者は境内に入れない)をつけ、門よりダラダラ坂を歩き江戸時代の初期の御影堂、最近建立した正本堂(規模その他建設詳細については省略)を外から見学。異教徒は内には入れてもらえなかった。門より正本堂までの道中、白いトレーニンズボンの訓練された青年部員が百メートルお

きに二・三人ずつ立ち「コンニチワコンニチワ」の挨拶をかけ、又「ポケットに手を入れない下さい。左側通行です」等、厳しい統制をうけた。我々だけの注意と思いきや、別の型のワッペン(信者は形の違う大きなワッペン)をつけた信者にも注意していた。注意された信者が寒いのか、小言を言っていたのが聞えましたが、これが本音かもしれない。大石寺の中で一番目に入るこの青年部の行動が上部の命令なのか、自主的行動なのか聞く機会もなかったのが残念であった。何か質問したくても質問できない、かたぐるしい見学だった。環境的には左手に富士の姿を真近かに仰ぎ、境内旧宿坊の前をきれいな小川が流れ、宗教的雰囲気につつまれた良いところである。しかしマスコミに「大石寺と学会が対立している」といわれているのを裏づけるかの如く信者の参拝は少なく閑散とした感じであった。

約二時間の見学後、また来た道を戻り、熱海世界救世教本部に向かった。本部の建物は駅の裏の小高い丘の上に建ち、昭和四十七年に完成したギリシャ風の建築様式をとりいれ

た、白亜の明るい建物である。ついたとたん玄関には「信者、幹部会員証を見せて下さい」と書かれているので、また待たされるのではないかと心配したが、前の大石寺で十五分ばかりまたされたのと違い、すぐ年輩の係員が丁寧に迎えた。ここでは内部の見学が許され、ミロク大神?が鎮座する講堂にまず案内され、救世教の内容について十五分程説明をきき、又この講堂の利用方法として、ロータリー、社会事業、会社、PTA等の研修会などにも開放しているなど、大石寺は閉鎖的、救世教は開放的と、両者の違いがはっきりと現われていた。又、当教団が力を入れている美術品のコレクション

### 全浄青代表者研修会

#### 「善導・法然・私」

第三回全浄青代表者研修会が、二月十日、十一日の両日にわたり、京都・和順会館において開催された。今回は五十五年に善導忌をひかえ、

私たちの決意を新たにする意味も込めて、テーマも「善導・法然・私」と定まった。第一日目は、大正大学名誉教授服部英淳先生をお迎えして「還相の自己」の演題のもとに、善導より我々に相続されている念仏の意義について講演があり、夜は「浄

ンも見学したが、一見の価値のあるものである。四時頃、小雪が舞う中、前庭の梅林を散策して、約二時間にわたる見学を終了した。最後まで案内人が丁寧な説明をしてくれた。向うから見れば異教徒である我々に対して、とても親切であり、バスに乗るまで見送っていた。我々はこの二日間、良いものは良い、悪いものは悪いとこの研修で認識し、浄青がよりよい方向に向うよう頑張っていきたいと思う。この両日、企画、立案、講演をしていただいた、鷲見、麻生両師に御苦勞様とお礼を申し上げる次第です。野中省道 記

青における福祉活動のあり方」について、グループ座談会が開かれ、地域・各自で行なわれている活動の様子が報告された。第二日目は来年三月の浄青の善導寺結集を前に、我々の「善導忌のとりくみ方」について討論があり、全日程を終了した。午後は希望者により清水寺へ赴き百四才大西良慶貫主より、四十分にわたり御垂示を頂いたが、その一言一言しっかりと大きな声で話されるお姿に感銘を受けた。

当教区からは、柴田哲彦・清水光致・森泰彦・鷲見定信・麻生諦善・白石謙祐の諸氏が参加した。

### 「沖繩33回忌法要に 参加して」

ご承知の通り、昭和五十二年は第二次世界大戦が終結してから三十三年目に当たります。そこで、関東ブロック主催による「沖繩戦没者三十三回忌慰霊法要参拝の旅」が企画されているので一緒に参加しないかと誘って下さる方があり、団員に加えて頂きました。

期日は十月一日〜三日の三日間。この沖繩滞

在中は、すべて晴天に恵まれ、姫百合・健児・黎明の塔における法要、そして各県慰霊碑前に行なわれた県別法要などの野外法要が、厳粛なうちに、懇ろな供養を行なうことができました。

一日目は、摩文仁の丘での法要の外に、浄土宗沖繩別院・袋中寺を尋ね、同寺御住職遠藤上人を導師と仰ぎ、仏前にて「三十三回忌慰霊法要」を行なったあと、糸満市郊外に建つ社会福祉法人袋中園を訪れ、乳児院吉水寮、精薄児施設微風寮を見学し、携えた慰問品を贈りました。今年の

### 「花まつり愛のプレゼント」

全員で参加しよう!



神奈川教区浄土宗青年会の活動を今後とも、より実のあるものへと拡大するために、昭和五十三年度に新しい事業として、釈迦生誕の機にあてて、当会活動方針にある「化他」活動の一環として「花まつり助け合い」(仮名)活動をやるうではないかと、柴田会長の発案から協議を重ねた結果、準備委員会(委員長(小杉副会長)委員(福祉に關係する石川成弘・石川邦雄・石川到寛・本山大谷正憲))が設けられ、企画の内容が明らかとなり、実行のはこびと

なった。この「花まつり愛のプレゼント」活動の位置づけは、当会の三つの柱である内の「化他」活動の実践であり、その目的は、釈迦生誕の喜びを多数の人々とわかちあうべく、会員持ち寄りによる物品を社会福祉施設、団体に寄付し併せて施設子どもたちと「花まつり」の一日を楽しく有意義にすごすことにある。各寺院も同様の意義をもって、毎年とり行なわれている「花まつり」を青年会の活動へと拡げてゆき一致協力の上に立って実践することがより意



【沖繩 神奈川県慰霊塔前】

春に開園したばかりの吉水寮には十人前後の乳児が、ボランティアの助力により、健やかに育てられています。

二、三日目は観光とショッピングに終始しました。帰航の途、未だ戦没者の収骨も終わらない激戦の跡を止めている沖繩は、空から見るとそ

義深くしてゆくものと考える。先般のお知らせの通り左記の予定で実施する計画である。

○実施日時・昭和五十三年四月八日(午前十一時集合(光明寺)午後二時プレゼント及び花まつりの集い(金沢母子寮))

○プレゼント先・㊦、金沢母子寮(横浜市金沢区朝比奈町四五五)

㊧、物品が多数集まった場合には、他の母子世帯ないし、障害児関係団体にプレゼントする予定。

この「花まつり愛のプレゼント」活動が成功し、今後とも引継がれてゆくことを願ってやまない。

れを忘れさせてしまうほどに清々しい島々でありました。

今回当教区からは、柴田哲彦、清水光致、石川成弘、里見嘉嗣、三浦正英、塚田勝晃、伊香輪曉道、皆川明演、香川隆敬の九名が参加し、会長発案により、厳粛さを保つ為、滞在中はネクタイ姿にて過しました。総勢は百十名の大参拝団でありました。(香川隆敬 記)

#### 〈新書紹介〉

『和訳 善導 観經四帖疏』

著者名 村 瀬 秀 雄

「偏依善導と讃えられた善導大師一千三百年忌を迎えて多くの行事が企画、予定されている。しかし、今最も問われるべきは何か。いうまでもなく善導大師の教えの一層の普及である。教学レヴェルにおいて熟知のこととはいえ、一般に知ることには少ない。この好機を得て善導教学の精髓というべき「観經四帖疏」が村瀬師によって訳出せられた。本書はその内容、文意を永年の学績によって、平明でわかりやすいものとして我々にあたえてくれた。本書は浄青のみならず広く一般大衆にとっても良き座右の書となると思われる。

# 組だより

## 三浦組

昨年の十二月十八日に十三名の会員が集まり、会員の親睦と会の活動の充実を計るために忘年会を催した。席上会員より活動計画その他に関する数多くの意見が述べられ、意義ある会にすることができた。活動計画として話合われたことは、毎月一回の例会を設け、その会において日常動行を中心とした法式の講習を行なうことを決め、さっそく今年の一月二十二日に第一回の法式講習会を開いた。大半の会員が参加し、なかなかなかにも次回への意気込が感ぜられた。また三浦組浄青として年末には地元商店街を中心に念仏行進を行ない、あわせて募金をつのり、歳末助合い運動に協力することも計画している。無力な我々ではあるが、青年僧侶として社会福祉に協力して行きたいと考えている。

## 高座組

昭和五十二年十二月、来年度の活動方針を話し合い、合わせ年度末の

締めくくりとして青雲寮勸募の一環とし、藤沢市内を托鉢行脚することに決定した。二月十一日真源寺を会処として、組メンバー七名は盛装し市内托鉢に出発、国道沿いの商店街を回った。藤沢駅前では約四十分間沖繩勸募を道行く人々に呼びかけ、多大な感銘を与えた。特に子供達に感心を持たせたことは布教活動の意味を兼ね有意義であったと自負している。集まった浄財二万数千円は県浄青を通じ沖繩に送金されることになっている。又来年度は東京、大河内上人を招き法式講習を受けることになり組内寺院会処を持ち回りとして夫々の資質向上と自己研鑽に励むことになっており、組、総勢十名は益々浄青の繁栄に張り切っている。

## 京浜組

昨年十一月十二日各位のご尽力により、当組浄青会の発会式を持つことができた。組活動は原則として隔月とし、会員寺院を巡回して会合を行うこととした。

一月は実用梵字の修得を目的とした会合があり、三月には、法事、通夜の席に於ける法話を中心とした研修を予定している。その後は、戒名について、仏像について、施餓鬼会、法式一般について等実践を中心とし

た研鑽を予定している。

その他、県、他組浄青会との連携と積極的参加を目標に推進していく。

役員 会長 吉岡了泰

副会長 林田真成

会計 大熊光昭

書記 森本祐康

## 小田原組

昨年度の小田原浄青は年度計画として初心に帰り会員相互の再確認、そして基本的勉強をもって再出発すべくスタートした。けれどやはり参加人員は常時限られてしまい今一步という所までいかなかった。

今年度は三月五日大河内先生の御指導で法式研修、四月十六日総会というスケジュールが決っているが、その折自分達僧侶として生活態度なり考え方なりにもっとときびしく対処していくべきではないか、僧侶としての自分自身を今一度見直す為にも浄青のあり方を反省、再認識し、よりよき浄土宗の指導者になるべく努力する様会員相互話し合い度いと思っている。

## 港南組

昨春秋、正式に結成以来、数ヶ月

であるが別時念仏、忘年会、新年会等を通して会員相互と又、港北組青年会との友好と連携を深める事に努めた。処女航海に出発した直後の当組として今年度は、着実に発展し前進しつづけるための、基礎を築き上げる年である。その意味において五月には、港北組との対抗ソフトボール大会と、家族懇親会を予定している。会員とその家族が、スポーツ、レジャーに相睦む事は、大変意義深い事である。これを機会に、他組との交流と団結を計る事に、努力したい。又会員の研修として、津田徳翁先生を講師に迎え、法式教室を年三回、並びに講演会等も予定している。更に十二月には、歳末助け合いの托鉢と、忘年会を行う予定である会員諸氏の積極的な参加を期待したい。

## 中郡組

我が神浄青中郡組は、数年来、法式の充実強化、並びに法要の近代化に向って研修努力を重ねてきた。

今年度は更に青年部の若きスタッフが意欲をもって宗乘的見解を加味して、時代に即した音楽法要を大きな新戦力として、仏教音楽を浄土宗の勤行式にそって編成し、浄土宗教化運動の現代化として研修し、年間諸行事の中に奉修していきたいと

思っている。今年度の予定

- 四月 奉修降誕会 平塚 (大念寺)
- 五月 法式研修会 伊勢原 (大宝寺)
- 六月 仏教音楽法要研修会 (大念寺)
- 七月 法式研修会 (大宝寺)
- 八月 施餓鬼会法話検討会 (大松寺)
- 九月 諷誦文検討審議会 (大松寺)

### 港北組

五十三年度には前年度総会に出された意見にもとづき、次のとおり計画する。

まず、幼稚園・保育園等を経営する寺院を除いて、花まつりはごくささやかに行なわれる傾向にある。そこで毎年一ヶ寺を会所として、檀家または地域の子供を集めて花まつりを行っていく予定。

次に以前から目的を同じくする他の組浄青との交歓を希望してきたが新年度では、港南浄青のご厚意を得て、家族を含めてソフトボールと家族親睦会を行う予定である。

法式関係では、会員以前の年代、特に子供を対象に、日常勤行・お施餓鬼・棚経の練成会を取り入れる。

また、機関紙「港北浄青」は年二回発行して行く予定である。



### 鎌倉組

鎌倉組青年会支部としては、神淨青発足以来理事等、本部付き役員等選出し、活躍発展して会員も六名余で組織されていた。しかし横の連絡というか、会員相互のつながりがもう一本という所までであった。そこで二月一回、三月二回新会員も含め組織作りを再度堅めていった。会員もやる気十分で会員も増加しつつある。今後共会合を持ち会則を決め活動に移ろうとしている。しかし会員だけでは少人数なため有力な先輩大徳の知恵を拝借し賛助会員として出席していただき自行・化他共に進めて行く方針である。

本山・教務所と立地条件としてはこの上もない鎌倉組であるので、今後共期待にそう様会員諸師努力する次第である。

### 青雲寮勸募

#### 神淨青のとりくみ

一 沖繩の恵まれない子に愛の手をーこれは今、全浄青が組織をあげ努力している、沖繩の養護施設「青雲寮」建設運動のスローガンである。この運動に対して、神淨青としても、全面的協力を理事会で決定し、

## 大本山光明寺十夜

### 鎌倉駅頭にて街頭伝導

今回の大本山光明寺十夜の参加は、十四日の一日に定め、その日に活動を集中的に行なうことにした。

当日、会員は九時に本山へ結集。直ちに行脚姿となり、十時半参詣者が多数見守る中を本尊前にて結願後、宣伝カーを先頭に鎌倉駅頭に向って念仏大行進を起した。

途中、この日の為に用意した「念仏とは何か」というパンフレットを街頭の人々に手渡し、十一時鎌倉駅頭に到着。小雨降る駅前広場にて、三十分に取りまわって街頭伝導を実施した。



【鎌倉駅前にて】

再び念仏行進にて帰山後、午後は恒例の十夜大法要のお練りに参加した。その後、本山境内に於て、沖繩青雲寮の募金活動を行ない、合わせて特に若人を対称にワンツーマン方式の対話伝導を繰り広げ、一千枚用意したパンフレットは、三時の終了迄に全て配布された。

（白石謙祐 記）

同時に資金勸募の方法も、次のごとくに申し合せをした。

- (一) 浄青会主催の特別募金活動（托鉢等）
- (二) 会員個々の募金活動（募金箱設置等）
- (三) 篤志

以上の方法で、特に目標額も定めないうが、この勸募に対しては化他活動のひとつとして、全会員が全力を尽くしてゆくことを決定した。

浄青活動において、重要課題のひとつは、我々にとって望ましい活動を常に模索していなければならないということである。この募金活動は我々にとって化他活動であると同時に、一方においては、今後の我々の在り方を考えるための、重要な問題提起であると捉えるべきではなからうか。

会員諸兄の絶大なるご協力を切に願う次第である。

事業並びに執行部動向

昭和五十二年

○関プロ浄青理事会

埼玉・浄安寺

5月16日  
会長外一名

○全浄青理事会

大本山・増上寺

5月29日  
柴田会長

○神浄青役員会

港北・蓮勝寺

5月29日  
会長外六名

○関プロ浄青中央研修会

埼玉・浄国寺

6月4・5日  
会長外四名

○神浄青新旧役員会

横浜・サテライトホテル

6月19日  
新旧役員十名

○神浄青第一回理事会

大本山・光明寺

7月9日  
会長外七名

○教区夏期僧堂手伝い

大本山・光明寺

7月28・29日  
会長外七名

○全浄青中央研修会

岡山・誕生寺

8月29・30日  
会長外四名

○神浄青第二回理事会

大本山・光明寺

9月10日  
会長外四名

○神浄青学族親睦会

高座・宗仲寺・座間キャン

9月17日  
高座・宗仲寺・座間キャン

○港南浄青発会準備会

港南・中田寺

9月18日  
柴田会長

○関プロ浄青理事会

大本山・増上寺

9月19日  
清水副会長

○京浜浄青発会準備会

京浜・東明寺

9月30日  
柴田会長

○関プロ沖繩慰霊団

沖繩・袋中寺他

10月1・3日  
会長外八名

○大本山光明寺十夜準備会

大本山・光明寺

10月9日

○大本山光明寺十夜

大本山・光明寺・鎌倉駅頭等

10月14日

○港南浄青発会式

田中屋

10月22日  
柴田会長

○京浜浄青発会式

京浜・教安寺

11月12日  
柴田会長

○関プロ浄青理事会

新宿 湖浜

1月21日  
森事務局長

○神浄青第三回理事会

湯本・環水楼

11月26・27日

○関プロ浄青理事会

上野・東天紅

11月29日  
柴田会長

○神浄青役員会

横浜・加登屋

1月15日

○神浄青研修会準備会

横浜・中華街

1月17日  
準備委員三名

○大本山光明寺成人式参加1月22日

○大本山・光明寺

○神浄青第四回理事会

会長外二名  
1月22日

○全浄青代表者研修会

京都・和順会館

2月10・11日  
会長外五名

○神浄青事務局打合せ

港北・蓮勝寺

2月16日  
会長外二名

○神浄青一泊研修会

熱海・誓欣院・富士大石寺等見学

2月17・18日

○花祭り助け合い準備会

小田原・魚国

2月18日  
準備委員外十名

○花祭り助け合い準備会

小田原・春光院

2月28日  
準備委員四名

○神浄青役員会

港南 金海苑

3月3日  
会長外五名

○神浄青第五回理事会

大本山・光明寺

3月11日

○神浄青定期総会

大本山・光明寺

3月26日

五十三年度 年間行事計画

4月8日 花祭り助け合い

6月下旬 第一回理事会 光明寺

7月27(29)日 夏季僧堂 光明寺

8月下旬 第二回理事会 光明寺

9月上旬 一泊研修会 光明寺

9月下旬 第三回理事会 光明寺

10月14日 光明寺十夜手伝い

街頭伝導・念仏行進

10月下旬 第四回理事会 光明寺

11月上旬 家族親睦会

11月下旬 第五回理事会(一泊)

1月下旬 第六回理事会 光明寺

2月中旬 他宗見学

3月下旬 総会 光明寺



浄青袈裟、バッジ幹旋

○浄青袈裟(伝道型) 二〇〇〇円  
○浄青バッジ 二〇〇円  
希望者は理事を通して事務局  
まで申し込んで下さい。

後記

▼浄青会のなかつた組も年度内に全  
て組織され、新年度は一斉にスタ  
ートすることになった。活躍が期  
待される。

▼「組だより」には組単位の交流も  
企画されたところもあり、横のレ  
ールも敷かれつつある。県下縦横  
にレールが敷かれるのも真近かだ  
ろう。

▼化他、自行、和合の三本柱を目標  
に街頭伝導、一泊研修会、家族親  
睦会等、適切な活動が行なわれて  
きた。来年度早々には「花まつり  
助け合い」と、外にも目を向ける  
ことになった。緑の下の力持ちの  
委員さんの労苦に感謝する。  
▼会員諸氏の協力により、二号も予  
定通りの発刊を見たが、会員の意  
見、アイデア等も積極的にとり  
入れたので、執行部では投稿を  
希望している。

編集子